



これからの外国語教育 ～実際の場面で活用できる外国語を目指して～

益田教育事務所 学校教育スタッフ 谷崎真理子

今から何十年も前、私が英語教師になって1年目の時に知り合いの家庭に外国の方が短期のホームステイに来ており、通訳として招かれたことがあります。一緒に夕食をとり、たわいのない話をしていたところ、ホームステイ先の家族の方から「お風呂に入るように伝えて」と頼まれました。そこで私は、次のような英語で彼女に伝えました。

Why don't you take a bath? 「お風呂に入ったらどう？」

“Why don't you ~”は「～したらどうですか?」、**“take a bath”**は「風呂に入る」という意味です。私としては、文法的に完璧な英語表現でしたが、その提案に対して彼女は、怪訝な表情をして、次のように答えたのです。

With you? 「あなたと（一緒に）？」

始めは彼女の言おうとしていることがよくわかりませんでした。尋ねたところ、“Why don't you ~”は、自分も一緒に相手を誘うというニュアンスもある表現だったのです。つまり、「私と一緒にお風呂に入りませんか？」と提案していたのです。学生の頃から英語が得意だった私にとって、単に文法の知識だけでは通用しないと改めて感じた出来事でした。

平成32年度から小学校、平成33年度から中学校で新学習指導要領が全面実施されます。特に小学校では3・4年生で外国語活動、5・6年生では教科としての外国語科が始まります。今回の改訂では、「外国語を使って何ができるようになるか」を明確にすることが求められています。中学校を例に挙げると、文法の説明や教科書の英文を解説して和訳だけをするような授業ではなく、実際の場面で使えるように英語での活動をもっと多く取り入れていかなければなりません。

まとめると、次のようになります。

- 重点1 「外国語を使って何ができるようになるか」を明確にする！
 - 重点2 必然性のある統合的な（「聞く・話す・読む・書く」をうまく織り交ぜた）言語活動を設定する！
 - 重点3 生涯にわたる様々な場面において、外国語によるコミュニケーションを図ることができる力を身に付けるために、小・中・高の学びを円滑に接続させる！
- 【平成29年度 各教科の指導の重点（外国語）より（島根県教育委員会）】

補足ですが、**Why don't you** を使って失敗した出来事があってからは、とにかく **ALT** にこの表現はどんなニュアンスか、この表現で意味が通じるか等、実際に聞き学ぶようになりました。これから小学校で英語が教科となり、特に小学校の先生方は英語を使うことに抵抗や戸惑いがあるかもしれません。しかし、実際に使ってみて、失敗して、そこから学ぶことが、子ども達同様大切なのではないのでしょうか。

Don't be so shy! Why don't you try to talk in English?



「親子でふれあいながら」

益田市教育委員会 派遣指導主事 宮田 茂樹

スマートフォンをはじめとした電子メディア機器の普及により、子どもを取り巻く環境は大きく変化しています。それに伴い子どもたちがインターネットを適切に活用出来る力を育成するとともに、保護者には電子メディアについての正確な知識や危機感が必要だと考えています。

益田市では、益田市情報リテラシー向上推進協議会（以下、協議会）を発足させ、益田市の保育所（園）、幼稚園、学校、家庭、地域、企業及び行政が一体となって、「情報リテラシーを身に付けた子ども」、「情報モラルを育む家庭」、「インターネットとつながる子どもたちを見守る地域」、「安全・安心なインターネット利用環境の構築」を目指して活動しています。今年度は「保護者啓発」をキーワードに取り組んでおり、中でも、親子のコミュニケーションを介した啓発活動に力を入れています。伝えている内容については次の2点です。

- ・家庭でルールを決めることで、適切な使用につながります。しかし、ルールを作ったことだけで安心せず、利用について関心を示し、保護者としてのメッセージを発し続けましょう。
- ・ネットトラブルは友達にも相談しにくいようです。「家族には相談しやすい」という関係を築くため、日頃のコミュニケーションを大切にしましょう。また、相談されたとき、適切に対応できるように、正しい知識や正確な対処の仕方を保護者も学習しましょう。

協議会の取組みの一例として、夏休みに児童館主催の親子対象「ぐるぐるパンづくり」の開催に合わせ、アウトメディアについて保護者へ話をする機会をいただきました。当日は、地域の方やたくさんの親子連れの方々と火おこしやぐるぐるパン、スープづくりをしました。暑い中、一緒に汗をかいて準備を手伝いながら、子どもたちの様子や大人の関わり方などについて様々な保護者の方と話すことができました。終わりのところで、教育委員会と益田警察署からアウトメディアについて話をさせていただき、とても有意義な時間となりました。



今回、このような活動を通した啓発の良さとして、親子がその場でメディア接触についての情報を共有できること、親子で直接体験することの楽しさを味わうことがアウトメディアの取組みにつながるなどが挙げられます。実際に多くの保護者の方からの「楽しく勉強をさせていただいた」や「ぐるぐるパンをもう一度子どもと作ってみたい」と感想をいただきました。

協議会では、今後もこのような親子ふれあいの場をとらえて、啓発活動へ取り組んでいきたいと考えています。次回は、益田市内の就学時前検診の機会にアウトメディアについて話をすることにしています。このような活動を通して、益田が子どもたちにとって安心してインターネットを使える地域になり、益田の子どもたちが情報リテラシーを身に付けた大人になるように取り組んでいきたいと思ひます。

